



祝 ヴァンフォーレ甲府J1昇格!!

11月14日、ヴァンフォーレ甲府が栃木SCを降しJ1昇格を決めたニュースは、既に皆さんご存知のことでしょう。

昨年来、ヴァンフォーレ甲府と山梨大学は地域におけるスポーツの振興・地域貢献を目的とする連携協力を推し進めてまいりました。今回のニュースは山梨大学の職員にとりましても、より感慨深いものがあります。

昨年10月よりこの連携協力のもと、大学側は医学部のグラウンドを提供し、ヴァンフォーレ側が整備・維持することになりました。これにより、大学は学生の教育や課外活動の場として常に整備されたグラウンドを提供できるようになり、ヴァンフォーレは悲願であった1年を通して使用可能なホームグラウンドをやっと持つことができるようになりました。

グラウンドの整備を終え、医学部グラウンドでのヴァンフォーレ甲府の練習がスタートしたのは今年の3月。緑の芝生の上で活発に動き回る選手、スタッフのはつらつとした姿に元気ももらった患者さんも多かったのではないのでしょうか。



医学部グラウンドでの練習風景

春、夏が過ぎて実りの秋を迎え、ついに県民待望の4年越しの夢は果たされました。来る2011年のシーズン、J1のステージで躍動するヴァンフォーレ甲府の活躍を、皆さんと一緒に楽しみに待ちたいと思います。

春、夏が過ぎて実りの秋を迎え、ついに県民待望の4年越しの夢は果たされました。来る2011年のシーズン、J1のステージで躍動するヴァンフォーレ甲府の活躍を、皆さんと一緒に楽しみに待ちたいと思います。

新相談室のご案内

これまで正面玄関ホールにある7番窓口「医療福祉支援センター」を御利用になった方は多いと思います。この度10月から新たに外来棟2階に「新相談室」が出来ました。個室になっておりプライバシーが守られ静かな環境でお話を聴くことができる場所になっています。原則的には予約制をとっていますので、ご利用の際は主治医・担当の看護師に申し出てください。



「日本は世界一の長寿国になったけれど、世界一高齢者にやさしくない状況になり、今後ますます加速していきだろ…」と、ある日の新聞の一説に記載がありました。年金問題に端を発し、百歳以上の身元が分からない方が何人もいるとか眼を覆いたくなる現状です。少子超高齢社会のまっただ中、在宅介護等色々な問題が生じています。

公費負担医療制度、介護保険制度等、社会資源の活用や色々な専門家の方にも協力をしてもらい、少しでも療養生活を過ごしやすくするために、皆さんと御一緒に考えていきたいと思えます。



問合先：医療福祉支援センター
055-273-9872 (直通)

『Dr. ヤナギダの大豆で作った飲むヨーグルト』

山梨大学ワイン科学研究センター長 柳田 藤寿

平成22年4月に「大豆で作った飲むヨーグルト」が販売されました。これは昨年7月「食品の展示会」に参加した時、北杜市の「白州屋まめ吉」(大豆飲料を扱う会社)のブースに連れていかれ、試飲したのが始まりでありました。この時の印象は、とにかく酸っぱくて飲めない飲料でした。これが共同研究のきっかけとなり、開発を進めてきたものです。

大豆は、体に良い成分が多く含まれています。大豆たんぱくは、中性脂肪の血中濃度低下。サポニン、肥満抑制効果、抗酸化作用。レシチンは、脳の活性化、抗酸化作用。食物繊維は、整腸作用、大腸がん予防。特にイソフラボン、乳がん、前立腺がん、骨粗鬆症予防など大変注目されている成分であります。このように健康効果の優れた大豆を用いて、製品開発を行った結果、以下の4つがおおきな開発ポイントとなっています。

1. 飲料用大豆(青臭みのない少ない)「すずさやか」を使用しました。
2. 「南アルプス天然水」で知られるミネラルウォーター生産日本一の「尾白川の水」にて仕込みました。
3. 大豆を生のまま微粉碎して、仕込水に溶かし込む「大豆丸ごと製法」技術を採用しています。おからの成分である食物繊維が豊富に含まれます。
4. 厳選された乳酸菌と山梨大学で開発された「山梨ワイン酵母 W-3」で時間をかけて発酵しています。ワイン酵母を入れることにより、大豆臭を少なくすることが出来ました。

以上のことから大豆臭の少ない飲むヨーグルトが開発されました。

4月から山梨県内のスーパー(アマノパークス5店舗)および県内数か所(道の駅)などで発売を開始し、ヒット商品となりました。今後は、山梨県産果汁混合タイプの開発などを行い、「Dr. ヤナギダ」シリーズとしてブランド化していく計画であります。



『多剤耐性菌って何?』

感染担当看護師長 堀口 まり子

やさしく
教えて!
第6回

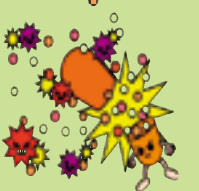
昨今話題になっている、多剤耐性アシネトバクターやニューデリー・メタロ-β-ラクタマーゼ1(NDM-1)産生多剤耐性菌など、日頃聞きなれない言葉がマスコミなどで報道されています。「多剤耐性菌って何?」と思っていられる方は多いと思います。

多剤耐性菌とは、多くの抗菌薬(抗生物質)が効かなくなった細菌のことをいいます。ある抗菌薬が効くからとそれを頻繁に使用することにより、その抗菌薬に対して耐性を獲得した細菌が変異して現れます。

今までに変異してきた耐性菌には、人の鼻腔内や皮膚表面に常在する黄色ブドウ球菌(MRSA:メチシリン耐性ブドウ球菌)や土や水周りなどの環境に生息する常在菌の緑膿菌(MDRP:多剤耐性緑膿菌)などがあります。アシネトバクターもまた土などの湿潤環境や広く自然界にいる細菌の一つです。

大部分の細菌は健康な人に感染してもすぐに病気になるわけではありません。しかし、からだの抵抗力が落ちているときなどには、多剤耐性菌による感染症にかかることがあります。この場合、抗菌薬(抗生剤)が効かないため、重症化し治療が難しくなります。

患者さんのかかっている多剤耐性菌による感染症が、ご家族の方にうつることは、ほとんどありません。ただし、これらの細菌は、手などを介して口や傷口から入って感染しますので、患者さんの介助等後には、きちんと手を洗ってください。特に症状が無ければ、検査をする必要はありませんが、熱がでるなど、体調が悪くなったときには、早めに医療機関を受診し、正しく診断をもらい、適切な治療を受けることが重要です。



一日看護師を体験して



座談会の様子

私は手術室で看護体験をさせていただきました。手術室はとても緊張が強られる現場です。少なからず手術前の患者さんは不安だろうと思います。だからこそコミュニケーションをとり、不安を和らげることが大切だと思いました。

また、手術中の患者さんの心身の状態を理解するという心配りも重要だと思いました。

甲府東高校 2年 齊藤 里奈

手術室では看護師や医師はもちろん、大勢の医療従事者と接することができました。一人の患者さんの命を助けるために、全員が最善を尽くしていました。チーム医療の重要性を学ぶことができました。

私の母は検査技師として働いております。その影響で、小さい頃から医療に関心がありました。数ある医療職の中でも看護師は患者さんにとって一番身近な存在です。この様な体験は貴重なものとなりました。改めて、看護職を志そうと決めました。この度は、本当にありがとうございました。

6月15日に山梨大学医学部附属病院で一日看護師を体験しました。というのも、私は将来、看護師になりたいからです。

今まで体験したことのない、とても貴重な時間を過ごしたと同時に、たくさんのやさしい看護師、医師の皆様に出会うことができました。

そして、実際に手術室に入り、手術をしているところを初めて目の前で見ました。正直、近くで見るのはとても怖かったですが、医師や看護師の方の適切で無駄のない行動に感銘を受けました。患者さんに向けた優しい言葉に、怖がっていた私も徐々に落ち着いて手術を見ることができ、命の大切

甲府東高校 2年 橋爪 史帆

さ、それをサポートしている人々の優しさ、思いやりの素晴らしさに感動しました。

案内して下さった看護師さんが、「手術中に眠っている患者さんの声を聞くことも、私たちの役目なんだよ」と言ったことも印象に残っています。

またここで皆様と出会えることを願って、将来の夢に向かっていきます。



ミーティングの様子

緩和ケアチームによる 緩和ケア教室のお知らせ



下記の日程で緩和ケア教室を開催します。毎月2回開催し、月の前半は薬剤師による医療用麻薬の使用について、月の後半は緩和ケア医師と看護師による緩和ケア全般に関する内容です。どちらも午後1時30分からで約30分程度です。予約は必要ありません。

患者さんやご家族、地域の住民の方などのご参加をお待ちしております。

日 程

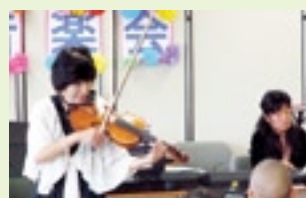
2011年1月11日、17日	5月 2日、16日	9月 5日、20日
2月 7日、21日	6月 6日、20日	10月 3日、17日
3月 7日、22日	7月 4日、19日	11月 7日、21日
4月 4日、18日	8月 1日、15日	12月 5日、19日

場 所：病院4階カンファレンスルーム

連絡先：山梨大学医学部附属病院 緩和ケアチーム
緩和ケア看護師 井上（代表：055-273-1111 内線：3441）

「院内学級音楽会」の開催について

玉穂中学下河東分校 長田 真紀



飯田 華代子先生

今年度も管理棟3階大会議室をお借りして「院内学級音楽会」を行わせていただきました。入院している子供達がとても楽しみにしている行事です。練習場所は教室や病室など様々ですが、楽器の音が響く時間は周囲を明るい雰囲気にしてくれます。

10月19日の本番には、9名の小中学生が参加し「カントリーロード」の楽器演奏と、「Believe」の合唱を披露しました。第2部では、ヴァイオリニストの飯田華代子先生と7階東病棟の高野信子看護師さん、山梨大学の学生さんによる、ヴァイオリンとチェロとの四重奏、ふたばベルクワイアの皆さんによるハンドベルの演奏を鑑賞しました。

病院長島田先生、鈴木看護部長さん、白沢事務部長さんをはじめ、たくさんの病棟の先生方や看護師さん達が応援に来てくださり、子供達にとって思い出に残る会となりました。



ふたばベルクワイアの皆さん

Q&A 患者さんの声から

Q： 「院外処方せん」を渡されたのですがどうすればいいですか？

A： 院外処方せんとは、お薬を医院や病院などでもらうのではなく、街の保険薬局で調剤してもらうための処方せんのことです。保険薬局であれば、どこでも薬を受け取ることができますので、ご都合の良い薬局へその処方せんをご持参ください。ただし、その期限は処方せんを交付した日を含めて4日以内ですので期限内に薬を受け取るようお願いいたします。

また、保険調剤薬局の紹介やファクシミリサービスなど詳細については、正面玄関ホールにある「処方せん相談コーナー」にお尋ねください。

Q： お見舞に生花を持っていきたいのですが、持込禁止となっている病院が多いと聞きます。持っていてもよいのでしょうか？

A： 生花の病棟への持ち込みは、遠慮いただいております。匂いや花粉のほかに、もともと生花に付着している病原菌や花瓶の水から細菌が繁殖し、それが入院患者さんに影響を及ぼす可能性があるからです。患者さんの中には、アレルギーをお持ちの方や免疫力の低くなっている方もおられます。空調により病棟内の他の部屋に流れていくことも考えられます。入院のしおりにも生花の持ち込みをご遠慮いただくようお願いしているところですが、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

消防訓練実施

医学部附属病院では、10月25日午後1時30分から、6階東病棟で火災が発生したことを想定した消防訓練を甲府南消防署の協力の下に実施しました。訓練では、平成21年度の消防法改正で設置が義務付けられた自衛消防組織の統括管理者が、初期消火・避難誘導・救護・工作・警備等の各班長の指揮を執り、最終的に災害対策本部長である病院長に避難完了の報告を行いました。



消火器訓練

出火想定場所の6階東病棟では、屋内消火栓を使用した放水訓練に加え、避難経路の防火扉の作動による、より現実的な避難誘導訓練を実施することができました。また、4階西病棟では、垂直式救助袋を使用して地上に降りる避難訓練、2階西病棟では、避難用スベリ台による避難訓練を行いました。



放水訓練

訓練に参加した教職員は、被害を最小限に留めるための行動を習得するため、緊張感を持って機敏に行動しました。また、消火器による初期消火訓練、体育館脇及び病棟3箇所の消火栓を使用した放水訓練も実施しました。複数の病棟から放水するのは初めての試みでしたが、多数の職員が放水を体験することにより、防火・防災に対する意識の高揚を図りました。